

平成28年度 福島大学大学院人間発達文化研究科入試問題

専攻(領域)名	教職教育(カリキュラム開発)	科目名	数学科教育学
---------	----------------	-----	--------

受験番号	
------	--

(1) 次の文を読んで問いに答えなさい。

(1) 先生の投書から

新聞の投書欄に、教師生活2年目の先生の『いい面を見て子の努力評価』と題する投書が載っていた。一度読んでみてほしい。教職のすばらしさが感じられる(朝日新聞東京版 1998年7月22日 K市 K.A.:教員23歳)。

教師生活2年目の今年も、いよいよ夏休みだ。今年は、四年生を受け持ち、29人の子供たちと生活を共にしてきた。わずかな暇を見つけては、遊びに興じる元気いっぱいの子供たちだが、チャイムが鳴っても遊び続ける子がいる。こちらが話しているときにしゃべっていて、後で「先生、何するん?」と聞きに来る子もいる。

そして、何度注意しても宿題を忘れてくる子。どうして自分の都合でしか行動できないのだろうと、うんざりするときもあった。

でも、子供の悪い面ばかり見て、イライラしていると、子供たちだっていやなはず。それなら、いい面を見るようにしようと気持ちを切り替えてみた。

そのつもりになって見ると、チャイムが鳴ったらさっと座り、授業に集中しているときだってある。得意げに宿題を出しに来る日もあれば、自分からみんなの仕事を引き受けてくれる子もいる。できて当たり前と思っていたときには気づかなかつたけれど、よくよく見てみれば、どの子もそれぞれに努力しているのだった。

不思議なことに、今まで見えていなかった子供の努力が見えるようになって、その子がとてもいとおしく思えてきた。ついつい見過ごしがちな一人ひとりの努力をすくい上げることを忘れずに、これからを過ごしていきたい。

この先生は、2年目とは思えないほど子どものよい面をみようとしているすばらしい先生の方である。よい面をみようとする構えは、子どもを指導するときにはとても大事なことはある。しかし、先生としていつもよい面ばかりだけをみようとしていてよいのだろうか。時には、冷静に子どもをみることも必要ではないだろうか。冷静に子どもをみることは、かわい子でもであると感じていられるほど、教師にとってはむずかしいことだろう。冷静にみて、同時に温かい眼でみることのむずかしさこそが教師の専門性であり、教職のおもしろいところでもあると思う。

(2) 人を理解し評価するときに生ずるかたより

①ピグマリオン効果

ギリシャ神話のピグマリオン、映画「マイフェアレディ」のヒギンズ教授、「アンカーウーマン」のロバート・レッドフォード演ずるウォーレンのように、教育育る側の期待が、命を与えられて乙女になったり、上流社会の貴婦人になったり、地方のテレビの天気予報のお姉さんがニュースキャスターになったりする物語はいくつもある。このような物語の場面を、学校教育の場で確認したのはローゼンサルとジャコブソン(Rosenthal & Jacobson, 1968)である。彼らは、ネズミの学習実験における実験者の期待効果から、授業の場面でも教師による期待効果があると仮定して以下の実験を行なった。小学校1年生から6年生までの児童に知能テスト(非言語領域)を実施して、20%の児童をランダムに選び、「この子どもたちはさきに実施した『学習能力予測テスト』によれば、これから急速に知的能力が伸びる子どもである」と新しい担任に密かに告げた。そして、半年後に同じ知能テストをしたところ、「伸びる子」として選ばれた子どもは、IQ得点において1年生で15点、2年生で10点ほど、選

ばれなかった子どもよりも伸びたというものである。3年生以上ではその差はほとんどなく、「期待効果」は低学年でみられることを実証した。彼らはこれをピグマリオン効果と名づけた。

その後、多くの期待効果に関する実験が行なわれ、実験の手続きや結果についても問題点が指摘された。それゆえ、この効果が実験的に確認されたとはいきれないが、多くの物語や映画にみるように、教師や支援者のいづく期待が指導や評価に大きな影響を与えることは否定できない。

②ハロー効果(光背効果)

さきのピグマリオン効果と関連があるが、ある子どもは成績がよく、テストでいつも高い点を取るといふことがあると、教師はこの子どもを、基本的な生活習慣が身につくという点、責任感もあり、指導力もあるだろうと暗黙のうちに考えてしまう傾向がある。ハロー効果とは、ある人のすぐれた長所を認めると、その人の全人格について過度に高い評価をするようになる現象である。このハロー効果とは、仏像の光背や聖像の頭のまわりに描かれる光背、後光、円光で、これは高貴さを表わすものである。この効果はプラスにはたらく効果と、乱雑に書かれたレポートはできの悪いものであると判断してしまうような場合など、好ましくない方向へはたらく場合があることはだれもが経験している。

この傾向は、人間ならだれもがもっている傾向である。それゆえ、教師はとくに冷静に、反省的に評価をすることが求められる。また、技術的には、評価の手順を明記すること、複数の教師で評価することなどが考えられる。

③寛大(寛容:ゼネロシティ)効果

これは、クラスの中で自分と気の合う子ども、いうことをよく聞く子どもなどに対しては、「よくやっている」と思えるものである。逆に、気の合わない子ども、いうことを聞かない子どもに対しては、悪い点ばかりが目につくものである。ことわざに「惚れてしまえばあばたもえくぼ」「坊主憎けりゃ袈裟まで憎い」とあることからわかるように、これもハロー効果と同様にだれもがもっている判断傾向である。

多くの児童・生徒を一度に相手する教師には、「なぜ、この子はそう行動するのだろうか?」と、その行動をもたらす要因を冷静に考える時間的余裕とこころのゆとりが、マイナスの寛大効果を防ぐためには何よりも必要である。

(出典 『認知心理学からみた授業課程の理解』 多鹿秀継 編著 北大路書房)

問 人を評価する際に注意すべき点を資料をもとにその要点を述べなさい。

平成28年度 福島大学大学院人間発達文化研究科入試問題

専攻(領域)名	教職教育(カリキュラム開発)	科目名	数学科教育学	受験番号	
---------	----------------	-----	--------	------	--

(2) 中学校数学における方程式の指導上の課題および授業改善の方向について、具体例を挙げ、あなたの考えを述べなさい。